

主体的な学びに向けての授業構成・授業展開について

児童に学習の目的をもたせたり、学習の必要性を感じさせたりすることができる課題設定の在り方

単元の導入＝課題設定の重要性

導入…単元の学習について意欲や見通しをもたせる。

付けたい力に適した言語活動を設定し、単元の導入時にそのモデルを示すことにより、児童に学習への意欲や見通しをもたせることができた。

低学年では、「おもしろそう、やってみたい」

学年が上がるにつれ、児童にとって与えられた課題となる。

児童にとっての学習の目的、学習の必要性が重要

3年 「世界の物語をポスターでしようかいしよう」

前学年では日本の昔話を読み広げている。

本単元では、いろいろな国や地域の物語に目を向け、幅広く読書する力を身に付けさせたい。

導入の工夫 教師自身が学習者そのもののモデルとなる

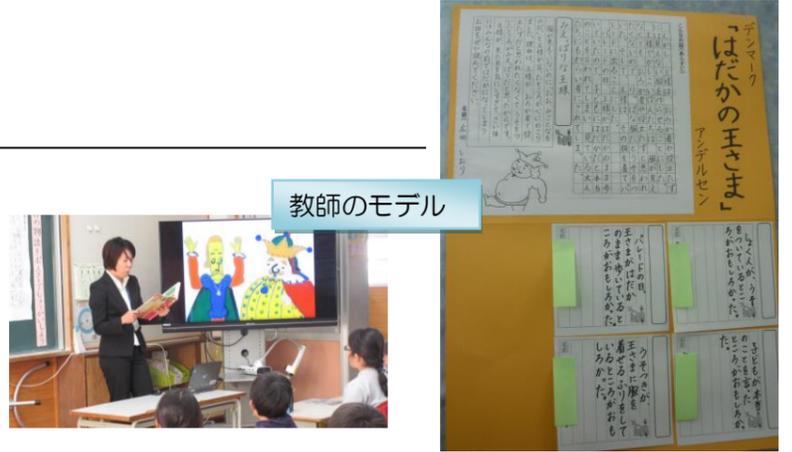
読書コーナーに置かれている本の中から、おもしろいからみんなに読んでもらいたいと思った物語のポスターを授業者が作成して紹介する。

動機付け（作りたい、読んでみたい。）

世界の物語を読んで、選んだ物語をポスターで紹介する。おもしろかった物語をみんなにも知ってもらいたい、読んでもらいたい。そのためには、あらすじをまとめて紹介する必要がある。

○自分の紹介したい物語を考えながら、世界の物語を読む。

（単元の学習の目的、学習の必要性を意識させる。）



教師のモデル



三次まで見通した板書

5年 「伝記を読んで自分の生き方を考えよう」

自分の夢の実現のために、複数の伝記を選んで比べて読み、自分を見つめ直し、これからの生き方を考える。

導入の工夫 道徳の時間の学習と関わらせた課題設定

「二分の一成人式」で発表した自分の夢を想起させ、夢の実現に向けての課題をつかませる。

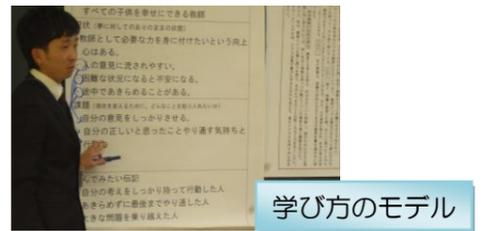
指導者が伝える「わたしのこれからの生き方」＝学び方のモデル

課題意識（夢の実現のための生き方を学ぶ。）

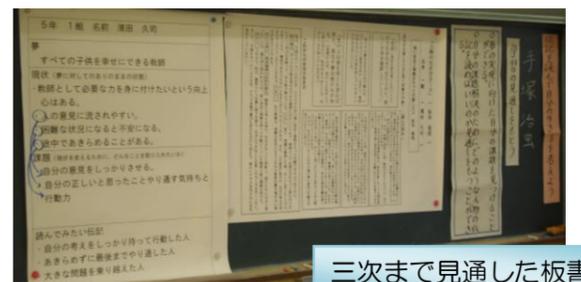
自分の課題を解決するために複数の伝記を選んで比べて読む。

○伝記に描かれた人物の行動や生き方と自分との共通点や相違点を見付け、自分に取り入れたいところを中心にこれからの生き方について考えをまとめる。

（単元の学習の目的、学習の必要性を認識させる。）



学び方のモデル



三次まで見通した板書

児童に付けたい力が確実に身に付いていく単元構想の在り方

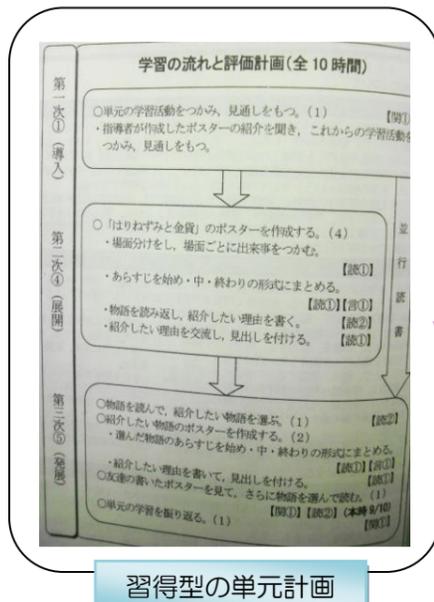
①導入…単元の学習について見通しをもたせる。

②展開…課題解決型の学習になるような構想を工夫する。

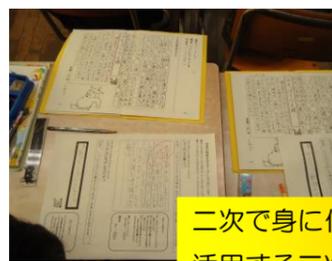
- ・前時に習得した知識や技能を本時に活用しようとしたり、新たな方法を見出そうとしたりするなど、学習が進むにつれ、言語に関する技能が習熟していくような第二次の流れを設定する。

③発展…言語活動を通して身に付けた力を、他教材又は図書資料の読みに生かす場と捉える。

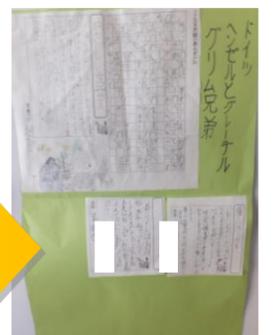
- ・第二次で身に付けた力を第三次の学習に主体的に活用することができる単元構想を設定する。



習得型の単元計画



二次で身に付けた力を活用する三次



単元のゴール

